

次に、自治会加入率と学校教育についてです。

自治会の加入率低下は、単に数字の問題にとどまらず、地域のつながりを弱め、災害時の助け合いや見守り機能の低下、そして子供たちの健全育成にまで影響を及ぼす重大な課題であると考えています。

新居浜市においても、令和6年度時点での自治会加入率は52.1%まで下がっており、地域の結びつきの希薄化が進行しています。市として様々な改善の取組がなされていることは承知していますが、現実として加入率は下がり続けています。

つまり、現行施策の延長では限界があり、抜本的な見直しと新たな戦略構築が求められるのではないのでしょうか。

特に自治会加入率の低下の背景には、地域に対する帰属意識の喪失があると感じています。そして、この帰属意識の育成には、教育の力が不可欠です。

かつては、子供たちが地域の清掃活動や防災訓練に自然に参加し、自治会との接点を持つことで、自分の地域に所属しているという感覚を育んでいました。ところが現在では、そうした体験が失われ、地域と学校、家庭が分断されつつあるのが現状です。

そこで3点お伺いします。

1点目、教育委員会として、子供たちが地域とのつながりや自治会活動の意義を学び、体験する機会をどのように確保しているのか、お答えください。

2点目、地域への帰属意識を育てる教育の観点から、自治会、学校、PTA、地域福祉団体等との連携をどのように深めていくか、お答えください。

3点目、現在、長期総合計画の自治会加入促進策において、教育との連携、次世代の地域担い手育成という視点が、どの程度考慮されているか。また、今後その視点を強化する意向があるか。

以上3点をお答えください。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。竹林教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（竹林栄一）

（登壇）自治会加入率と学校教育についてお答えいたします。

まず、子供たちが地域とのつながりや自治会活動の意義を学び、体験する機会の確保についてでございます。

子供たちが地域活動に参加することは、社会の一員として成長し、未来に向けた強い基盤を築くための大切な要素であると考えております。

また、地域にとっても、子供たちとのつながりを深めることで、より強いコミュニティーが形成され、共に成長することが期待されます。

地域が集い、学び、結ぶ場として、公民館では三世代交流事業や地域の伝統、歴史の伝承など、地域の実情に応じた地域教育力向上プロジェクト推進事業に取り組んでおります。

本事業では、地域、学校との連携の下、しめ縄作りや餅つき大会、地域の運動会や文化祭、防災訓練、花いっぱい運動等を実施し、多くの子供たちが参加しております。これらの活動を通じて、子供たちが地域の伝統文化を学び、地域の防災活動、環境美化活動に関心を持ってもらうことで、郷土愛を醸成するとともに、地域活動の意義を浸透させてまいりたいと考えております。

次に、地域への帰属意識を育てる教育の観点から、自治会、学校、PTA、地域福祉団体等との連携をどのように深めるかについてでございます。

子供たちにとって、地域との深いつながりを感じ、安心できる環境があることは、アイデンティティーの確立や心の安定につながるものと思っております。

本市では、市内全ての小中学校がコミュニティ・スクールとして、学校と家庭、地域が一体となり学校運営に取り組み、新居浜の未来を担う子供たちを育む地域学校協働活動を推進しております。教職員やPTA、地域の方の中から選出された委員で構成される学校運営協議会が中心となり、連携を図っております。

地域学校協働活動では、地域の方が、地域文化や伝統芸能を教える取組や授業にゲストティーチャーとして参加しており、これらの活動を通じて、子供たちが地域の一員であることを認識するとともに、地域に対する愛着を持つことにつながっております。

今後におきましても、地域学校協働活動を推進し、地域全体で子供たちを育てる体制づくりを促すことで、子供たちの地域への帰属意識を育んでまいりたいと考えております。

○議長（田窪秀道） 沢田市民環境部長。

○市民環境部長（沢田友子）（登壇） 第六次新居浜市長期総合計画の自治会加入促進策における教育との連携、次世代の地域担い手育成についてお答えいたします。

核家族化や少子高齢化の進展、住民の価値観や生活様式の多様化などの理由により、地域社会を取り巻く環境が大きく変化し、自治会加入率の低下が大きな課題となっている中で、現在、市連合自治会では、加入率向上策の一つとして、市内の小中学生を対象に、毎年、地域の人とのつながりや地域の絆の大切さをテーマに、絵画や作文を募集し、次世代を担う子供たちに地域のつながりの大切さを改めて考え直してもらおうきっかけとなるような取組を行っております。

また、三世代交流行事や防災運動会等の運営に中学生に参画してもらおうなど、地域の絆を強め、地域づくりの担い手を育てていく取組を行っている校区もございます。

地域への帰属意識を育成していくことは、非常に重要であると考えておりますので、今後、第六次新居浜市長期総合計画の後期計画の策定を行っていく中で、教育委員会等と連携しながら、地域、学校、家庭が一体となった地域づくりを推進し、次世代の担い手育成強化につながる計画づくりを行ってまいります。

○議長（田窪秀道） 再質問はありますか。伊藤義男議員。

○2番（伊藤義男）（登壇） 自治会加入率の向上は、まちづくりの根幹を支える人づくり、意識づくりの課題です。地域とのつながりが希薄になる今こそ、教育、地域、家庭を結び直す持続可能な自治政策が求められます。

現在、角野地区では、若い世代や中高生が主体的に地域活動に参加する新たな団体が立ち上がっており、次世代の担い手育成における好事例です。

こうした取組を市全体の施策にも生かしていただくよう要望し、私の

一般質問を終わります。
ありがとうございました。